

**「各務原市総合計画」策定にかかる
各種団体・企業へのアンケート調査結果
【中間報告書】**

令和5年6月
各務原市

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査対象	2
3 調査期間	2
4 調査方法	2
5 調査項目	2
II 調査結果	3
問 1. 団体等の概要	4
問 2. 団体等の活動に関連して感じる社会的な問題点や課題	7
問 3. 期待する各務原市の姿はどのようなものか	14
問 5. 期待する姿の実現に向けて、主体的に取り組みたいこと	17
問 6. 自由意見（今後のまちづくりについての課題やアイデア等の意見や要望）	19

I 調査概要

1 調査の目的

各務原市において活動している団体や企業（以下、「団体等」）の活動の現状や課題、今後のまちづくりについての意識などを把握し、次期総合計画策定の基礎資料として活用するために実施しました。

2 調査対象

各務原市において活動する各種団体等 47 団体を総合計画の基本目標ごとに網羅的にピックアップしました。

3 調査期間

令和 5 年 5 月 12 日（金） ～ 5 月 26 日（金）

4 調査方法

○アンケート調査

郵送、メールにて配布・回収、WEB回答

5 調査項目

問 1. 団体等の概要（設立年、構成員数、主な収入源等）

問 2. 各分野について、団体等が感じている課題

①団体等の活動に関連する分野における課題

②団体等において関心がある分野における課題

問 3. 団体等が期待する各務原市の姿はどのようなものか

問 4. 期待する姿の実現に向けて、主体的に取り組みたいこと

問 5. 自由記述（今後の各務原市のまちづくりについて、新たなアイデア、意見、要望）

Ⅱ 調査結果

問 1 . 団体等の概要

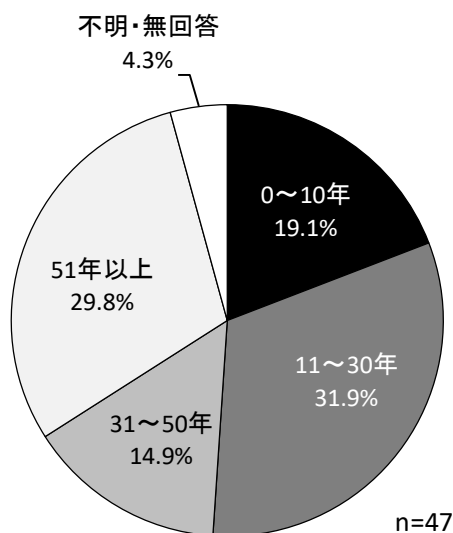
回答団体・企業数 47団体

団体等の活動年数は「11～30 年」が 15 団体（31.9%）と最も多く、次いで「51 年以上」が 14 団体（29.8%）となっています。

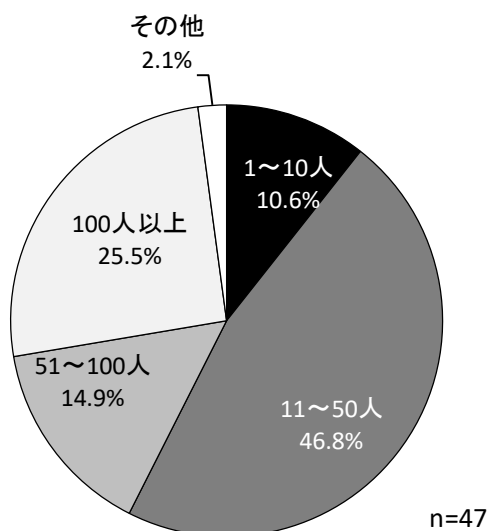
構成員数では、「11～50 人」が 22 団体（46.8%）と最も多く、次いで「100 人以上」が 12 団体（25.5%）となっています。うち、65 歳以上構成員数では、「0～10 人」が 19 団体（40.4%）と最も多くなっています。

主な収入源は、「事業収入」が 16 団体（34.0%）と最も多く、次いで「会費」が 14 団体（29.8%）となっています。

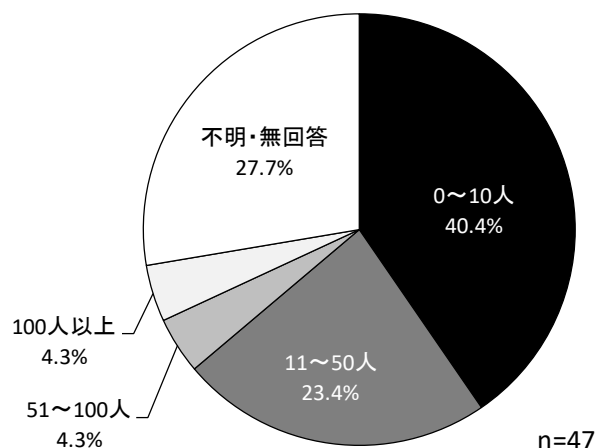
①団体等の活動年数（n = 47）



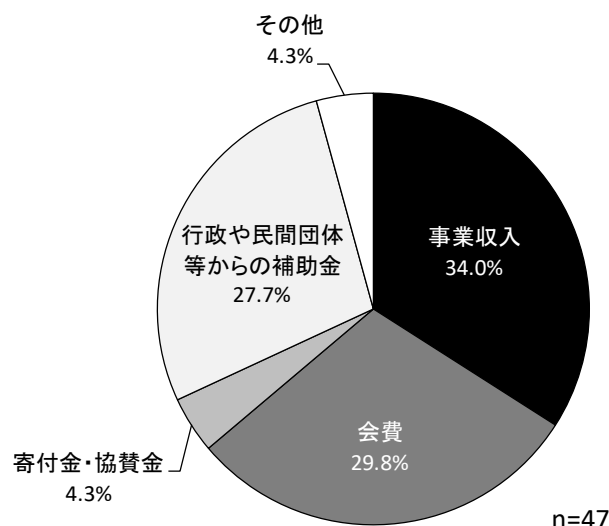
②団体等の構成員数（n = 47）



③うち、65 歳以上構成員数（n = 47）



④主な収入源（n = 47）



⑤主な活動内容

区分	回答内容
市民協働	
市民協働	まちづくりの推進を図る活動
人権・平和	人権擁護委員として、人権擁護、人権相談、人権啓発活動
教育・文化・スポーツ	
青少年教育	学校、保護者、地域の方がメンバーとなり、地域でどのような子供を育てるのかを一緒に考え、三者がその方向性を共有し、校区全体に啓発しながら活動を行っている。当協議会では、「みんなで育てよう自分のことが好きな中央の子」を理念とし、特に今年度は「あいさつプラスワン」活動を重点として取り組んでいく。「あいさつプラスワン」とは、地域の子供たちに、「おはよう」のあとに「今日も元気だね」、「こんにちは」のあとに「いつも頑張っているね」などと、あいさつの後にその子のよさを認め励ます一言を付け加えることである。他の活動として、前期や学年末の節目には、学校、地域、保護者から言われて嬉しかった言葉を用紙に書き留め、小学校から中学校へと持ち上がるキャリアパスポートにそれを蓄積していくことを行っている。
文化芸術・歴史	朗読の練習 鵜沼宿の町並保安全管理：会議開催・中山道美化清掃・イベント協力 編み物の学習、作品作り
環境	
環境保護・保全活動	環境教育の普及、啓発、自然環境の保全など 八木山～愛宕山の市有財産区の環境保全と登山道整備 生活者の視点から身近な環境問題（水環境保全 河川調査市内3ヶ所・食品ロス削減・省エネルギーなど）、消費者問題、身近な社会問題等学習し、市内イベントなどでの啓発活動。
生活環境	「桜まつり」に合わせて市民公園の清掃奉仕。
保健・医療	
健康づくり	地域住民の食育普及
地域医療	地域医療、介護の活動 ・各務原市歯科口腔保険事業 ・歯科検診事業 ・幼児フッ素塗布事業 ・歯周病検診 ・妊婦歯科検診事業 ・高齢者口腔機能向上事業 ・8020 達成者表彰事業 ・在宅歯科医療・介護連絡支援室 助産師業務（産後ケア：各務原市委託事業所、新生児ケア、妊娠期のケア、乳房マッサージ、性教育など）
福祉・社会保障	
高齢者福祉	デイサービス、訪問介護、福祉有償運送、たすけ合い運動 定期的な高齢者との交流（月2回）

区分	回答内容
子ども福祉	フリースクール シングルマザー、プレシングルマザーとその子どもたちの行き詰まり感・生き辛さの解消と、参加者相互の親睦を深め必要な時に共に助け合える仲間づくり、自分らしい人生を生きるための勉強会などの活動を行っています。 親子サロン、子育て支援
防災・防犯	
防災体制	地域防災力の強化を目的に防災意識の向上と災害時の支援活動。
消防・救急	市民に対する応急手当の普及補助(救命講習)、各務原市消防操法大会運営補助
防犯・交通安全	寸劇で悪質商法(詐欺等)を学習する。 地域安全活動(犯罪抑止) 交通安全啓発活動
基盤整備	
都市空間	蘇原中央大通り(岐阜鶴沼 4 車線)歩道花壇の維持管理 建築士会員のプロとしての向上と街や建物への還元事業の実施。 街路樹剪定・公園除草・堤防除草・公園施設整備等 公益目的事業「不動産に係る権利の明確化推進事業」 1. 公共嘱託登記に係る受託事業(法定事業) 2. 地図整備の促進等に係る受託業務(関連事業) 3. 防災及び災害時支援事業(自主事業) 4. 土地の境界及び公共嘱託登記に関する知識の普及啓発事業(自主事業) 共同購買、ボランティア活動
上下水道・河川	給排水材料販売
公共交通	一般乗合旅客自動車運送事業、一般貸切旅客自動車運送事業
産業	
工業	・金属プレス、溶接、組立加工全般 ・金型治具、設備、制御装置の設計製作 ・プレス関連機器製造販売 自動車車両製造
商業	経済団体 銀行業を中心とした金融サービス業 金融、共済、営農、経済 小売業
観光・交流	全国のまちおこし映画を各務原市に集結させ映画祭を開催することで、まちおこし映画の魅力を発信し映像文化の裾野を広げるとともに、イベントを通じた地域資源の再発見や世代間・地域間交流の活性化に繋げることを目的とする。 ・施設の維持・管理・運営 ・商業施設およびイベントなど、集客・収益事業の企画・運営・管理 ・商業施設および便益施設の企画・運営・管理
雇用	職業安定機関と協力して質の高い労働力の確保をはかり、かつ変化していく社会情勢に対応していくための構造、制度研究を行い、もって地域産業の発展に寄与する。 ・労働者にかかわる全般 ・政策提言・政策実現活動、社会貢献活動、平和貢献 ・市民への周知・啓発活動(労働制度、労働法改正、その他活動)、組合員への教育・互助活動など
その他	共同受注、金融事業、教育研修事業、福利厚生事業 総合事業 新聞、書籍の発行、各種事業、施設の運営など

問 2. 団体等の活動に関連して感じる社会的な問題点や課題

①団体等の活動に関連する分野における課題

区分	回答内容
市民協働	
市民協働	各分野で活動する市民団体やグループは市内にいくつかあると思いますが、その情報が市民に周知できていない現状があると実感しています。その分野に関心があっても参加方法が分からない、同じような組織が乱立するなどの問題が挙げられます。一元管理をするのはもちろんですが、それらをどのように情報発信するのか、若年層とシニア層での異なるアプローチ方法を確立することが求められます。
自治会・広報活動	コミュニティ活動への支援に関する課題。コロナ禍で休止が余儀なくされた活動も再稼働したが、いざ再稼働してみると過去の活動のノウハウが引き継がれていないことに気が付いた。→ホームページに会員向けに活動マニュアル等を掲載するポータルサイトの作成を考えている。 地域活動への参加促進に関する課題。少子化により稲羽西地区でも市民運動会が開催できない。また、子育て世代も共働きにより土日でも地域活動への参加が困難なケースがある。→参加促進手法としては、毎年同じイベントを繰り返すのではなく、参加したくなるイベントを企画することが必要と考えて企画・立案・実施活動をしているが運営側の負担が大きい。 広報活動の充実に関する課題。現在の広報の手段は、回覧版、広報紙同梱、ホームページがある。→各種団体とLINEグループを利用したがあまり活性化できなかった。今後は燃えるゴミの集荷場所にデジタルサイネージ等の設置も検討したい。
人権・平和	委員の人数が少ないこと。
教育・文化・スポーツ	
学校教育	学校、保護者、地域が連携しながら、それぞれの立場で子供を育てていくことが理想ではあるが、学校へかかる依存度は大きい。 教員の働き方改革を多方面からさらに促進させる必要がある。 不登校児童生徒の増加傾向。学校以外の場所での居場所づくり、学ぶ場や機会を増やすことなどのセーフティーネットの整備。 学校環境衛生活動への取り組み 多胎児支援、医療的ケア児の支援、特別支援学校での医療的ケア
学びの機会	朗読(声に出して読む)楽しさ、仲間と作品を通して、気持ちを共感しながら、それを他者に表現することの喜びを伝えて、もっと朗読する人が広がり、サークルも増えていけるよう努力したい。 サークル参加者の年齢が高くなり、若い世代の方が少ない。
文化芸術・歴史	会員の減少及び高齢化。役員の高齢化も深刻。加えて行事のマンネリ化。会員減少により当然ながら会費収入が減少し、年々、会の収支が縮小。動ける(有能な)スタッフが少ない。名前だけの役員、口だけの役員などが、それでも頼らざるを得ない。後継者がいない、というか見付からない。後継者を真剣に育てなかったつけがここにきている。このままでは将来の展望はない。
環境	
環境保護・保全活動	国および地方自治体において、財政が潤沢でないなか、環境分野への予算(投資)が削られている現状であります。自然環境や生物の損失は、容易に復元が難しいことから、今ある環境や生物の生息地の保全が重要であることから、環境分野への積極的な予算配分のご検討をお願いしたいです。 会員の高齢化が進み活動に支障をきたしております。平均会員年齢は 75 歳程度になっています。大きな枯れ木や倒木の処理及び傾斜地の作業は危険を伴うようになってきたため、市に依頼しております。今、進めている住民の健康づくりの「すそ野道」の整備は無理な状況になってきています。 年月の流れと共に会員の高齢化(ほぼ 80 代)と新加入者の減少により活動範囲を縮小し、活動を継続していくのに苦心をしている。このような現状にかかわらず市河川公園課の皆さんに支えられて数々の励ましの賞を頂いた。又、活動内容に対して野口自治会の役員の皆さんにもご理解を頂き、活動資金の増額をして頂いている。ただ、生活環境美化への市民の関心は高いとはいえない。 1 歩道花壇への犬の出入りは未だ見られる。糞の処理は年々改善されている。 2 歩道花壇の樹木は老朽化とともに若い樹木が植栽され市当局に感謝する。 3 活動資金は現時点では「寄付金」と「自治会からの助成金」で賄っている。 (提案) ①「歩道花壇」周辺の住民の皆さんへ「花苗」を例え一株でも配布しては？ ②「歩道花壇」周辺の住民の皆さんの「花壇」への関心が高い方々とそうでない方々の差があり過ぎる感がする。広報紙で「花壇」への関心を高めるような方策を考えてほしい。最近の広報紙は行事関係や人の紹介が多い。それより目に見えない所で生活環境美化に貢献している方々が必ずいると思う。そういう市民を発掘するのも広報紙の役目でないでしょうか。 脱炭素へ向けての施策 カーボンニュートラルの推進 急速に変化している環境問題について、その時に沿った活動を進める。

区分	回答内容
	当団体へのメンバー以外の会社参加 人手不足の対策としての担い手確保 働く方改革に対して労働賃金アップ対策 ボランティア活動には参加しているが、あまり企業活動と連動しているとは思えない。 四季を感じられる地域に住んでいる事をより楽しく感じられる街並みを作ることが大切であり、それを使命と考えております。樹木は時を追うごとに大きくなっていき、放置しておく災害、事故に繋がります。そのリスクとリターンを調整するには、住民の協力(人的、意識的)や、行政の協力が必要であると考えます。これまでも協力、協働頂きましたがより必要になってくると考えます。緑情景、緑化保全に対する市民意識に温度差があり、時として施工に影響することがある。
保健・医療	
健康づくり	会員の高齢化における活動また移動
保健・予防	今後、国民皆歯科検診に向けて健診体制を確保する、個人の予防、健康づくりをサポートする。 従業員の健康管理
地域医療	地域連携、地域包括、多職種連携への推進 地域を支える歯科医療を推進する、質が高く、効率的歯科医療体制を確保する。 多胎児支援、医療的ケア児の支援
福祉・社会保障	
地域共生社会	総合計画ダイジェスト版 13 ページに、「福祉の拠点づくりの推進」があった。令和 4 年 9 月より、各務原市に登録されていた空家を賃貸し、2団体の拠点として使用を始めたが、キッチン入れ替えなど非常にお金を要した。空家を活用し、福祉拠点として活用する場合に「各務原市独自の助成金制度」があれば、空家の福祉的活用が進むと思われる。
高齢者福祉	認知症で独居の方の郵便物(行政からの重要な書類)の管理ができない。 認知症独居で家族の援助が得られない方のきめ細かいサポート。家族が遠方におり、また近くにいても疎遠になっている場合のサポートの方法。普段の生活や考え方を熟知していない(利用者から信用されない)ときめ細かいサポートができない。 高齢社会になり運転免許返上者の移動手段で困っている人のサポート。福祉有償運送の運転手も高齢化し次の担い手がいない。専属で雇用するほどの仕事量もなく、時給も安い。 チョイスコを利用して買い物しても重い物を持って停留所から自宅まで歩けないので利用がしにくい。(訪問介護利用者の言葉) 介護職員の高齢化に伴い、補充するも人材が確保できない。介護職員の不足。給与が安い。介護報酬単価が安い。体制加算で報酬を得るようになっており、小さい事務所においては加算を得るための人材や、書類作成のための人材がいない。最低賃金の確保(年齢何歳までが対象?) 後継者がいない。 地域連携、地域包括、多職種連携への推進 V/H 運営執行部の高齢化と後継者問題、50～60 歳代の参加(又は執行部入り)、男性参加者不足と子供達の参加策 送迎(移動手段)問題
障がい児者福祉	会員の高齢化のため役員の選出が難しくなっている。 学校環境衛生活動への取り組み。地域連携、地域包括、多職種連携への推進。 特別支援学校での医療的ケア
子ども福祉	不登校、ひきこもりの増加。一度社会ルールから外れると個人では復活は困難課題も個々によって異なるため、集団での支援では効果がないため、個別支援となる。福祉制度に該当する人へは、支援の手が届くが、ボランティアの範疇で中途半端にできる支援ではない。専門性のある支援(NPO 独自のノウハウ)のため、個人の費用負担や後継者育成の費用や時間がないことが課題。 地域で子育てしていくために、地域の方の理解と関わりが必要。地域の方を巻き込んでいく事の大切さ、必要性を伝え協力していただくための方法。活動と場・施設探し。広報の仕方。 学校環境衛生活動への取り組み。地域連携、地域包括、多職種連携への推進。 多胎児支援、医療的ケア児の支援
その他	多様なニーズに応え、社会貢献を果たす。
防災・防犯	
防災体制	災害時歯科対応の徹底、充実を図る。 災害時の母子支援 東日本大震災を機に、翌年「防災ひとづくり講座」修了者を対象に会員増加を図り、各自治会と連携し地域自主防災の啓発を目標に活動してきた。自治会または会員においても、防災に関する知識及び意識の温度差がある。特に、自治会役員の毎年度全員同時交代などによる認識の低下に伴い、継続的な防災知識の向上及び啓発が困難な状況にある。従って、推進委員の高齢化(名ばかりの幽霊会員も居る)も前提に、防災関係者の隔年交代や若年化及び女性会員の育成と防災意識の平準化である。
消防・救急	団員確保

区分	回答内容
防犯・交通安全	消防団員の処遇改善
	消防団員のイメージUP
	我が大学の心理学科の中に、救急救命分野という括りがあり、多くの学生が救急救命士を目指しています。そのうちの3・4年生から有志を募り学生消防団として活動しています。救急の知識技術に関しては日ごろから学んでいるため消防本部が担う「救命講習」補助には問題がありません。しかし、消火・救助活動については機会が少ないため、これらを経験させることが課題です。
	出前講座でオレオレ詐欺・還付金詐欺・架空請求詐欺等を撃退する方法をいろいろやっているにもかかわらず、だまされる高齢者が減りません。
基盤整備	社会情勢の変化により、防犯協会員が減少・高齢化し、地域安全活動への参加者が減少していること。
	会員減少に伴い予算も年々減少し、今後の地域安全活動の継続に危機感があること。
	交通安全運動等における活動の性質上、平日・休日を問わないことから、協会員は自営業者か退職者等、比較的に自由な時間がある者に限られます。必然的に高齢者になります。協会の活動に関心がそれ程高くない世代が増える将来にとって、一般の人が協会の活動に従事するということはもとより、活動に対する関心もさらに下火についでいくのではないかと思います。
都市空間	課題:いかにして「鵜沼宿へ行ってみたい」と感じられる魅力ある楽しい場所にするか。 具体的には、 ・積極的にイベントや展示会を開き来館者を呼び込む。 ・飲食店や特産品(みやげ)販売店の誘致 ・飲食やゆっくりくつろげるスペースの確保 ・インターネットや活字媒体による情報発信
交通体系	街づくりへの取り組み、交通網インフラ整備を含めた街づくりについて各務原市はどういう方向性が良いのかを模索すること。 狭隘道路の整備。災害時の消防活動等に支障となる狭隘道路整備事業の拡大を図れないでしょうか。現行の制度も機能しておりますが、地主の住宅を建てる場合に適用が限定されており、そもそも狭い道を広げる事が主眼であるはずなのに、適用範囲が狭いと感じています。他市では建物用途を問わず適用されている事例があります。最近に国交省社会資本整備総合交付金の狭隘道路整備等促進事業交付金(交付率1/2)が整備されており、うまく使えないでしょうか。
上下水道・河川	市民の皆さんへ安全でおいしい飲料水供給と下水道普及ため、地下水保全・管理、生活排水対策推進。
公共交通	人口減少、バス運転士不足。
産業	
工業	資材の高騰
商業	市内にある商店街の経営者の高齢化が進み、商店街が機能していない状況で空き店舗も多い。このままでは廃業が増加し、商業者が減っていくことを危惧している。
農業	農業者の高齢化と担い手不足 食料自給率の低下 耕作放棄地の拡大 生産コストの削減(肥料、飼料、原油等に係る資材費の高騰) 農地保全(市街化農地含)、基盤整備など 地域農業の発展について 農業の衰退、高齢化、後継問題 耕作放棄地、人口減少
雇用	働き手の採用難(市内の工業系高校、大学との関係性) 労働現場と働く人のマッチング 労働者＝市民という概念が希薄になっている 働き方改革など労働に関する制度が改正された時や従来利用できる制度があるにもかかわらず、市民や労働者に伝わらない。 労働人口の減少による、労働力不足 労働力不足による、雇用期間長期化 製造業におけるジェンダー平等推進(特に女性のキャリアアップ) 航空宇宙産業は、長期にわたる低迷から脱し回復基調に入ったが、不安定要素もありピーク時に戻るにはまだ時間がかかる世界的な仕入れ価格、エネルギー価格の上昇における収益悪化が続くと見込んでいる売上高激減を起因とした離職者が増え、組合員企業のほとんどが人手不足の状況であると同時に人材確保にも苦慮している技術者の高齢化が進む中での若い人材(特に生産技術者)の育成。 人材難 後継者不足

区分	回答内容
	作業員不足
行財政	
行政運営	街づくりへの取り組み、交通網インフラ整備を含めた街づくりについて各務原市はどういう方向性が良いのかを模索すること。
	いずれ訪れる人口減少。労働力不足。

②団体等において関心がある分野における課題

区分	回答内容
市民協働	
市民協働	持続可能な社会づくり、SDGS の理念に沿った活動を推進する。
自治会・広報活動	コロナ禍で、様々な団体では活動が停滞していたことも背景にあるのか、自治会、子ども会等、地域活動を継続させにくかったり、地域活動への参加意識が低下している印象をうける。
教育・文化・スポーツ	
学校教育	フリースクールと障害児日中一次支援を併設し、不登校児童の対応をしている県の協議会でも提案をしているが、福祉と教育の連携した支援が必要、現在少しずつ学校との連携も始まっているが、学校間でその対応の格差がある不登校児童が増える中、福祉分野とどのように連携していくかが課題(家庭支援や家族支援が不登校の子どもたちには重要な支援) 学校教育において、労働教育が希薄。働きだして戸惑う事が多いので 在学段階から「はたらく」ことについて学びの場を設けたい。 学生時代と働き出してからのギャップが大きいと聞くため、少しでも埋めたい。 特別支援学校での医療的ケア児への支援
学びの機会	自分たちが朗読によって表現すること、そして他者に伝えることを主として学習してきたが、聞いてくださる人たちにも部分的に参加していただき、共に声を出すこと、表現することの楽しさや喜びを感じられる形での発表も積極的に進めていきたい。
文化芸術・歴史	課題：地元の人たち(特に子どもたち)に中山道と各務原の関わりをもっと知ってほしい。 具体的には ・子どもたち(小・中学校や子供会など)の見学を誘致する。 ・子どもたち向けのイベント(体験会・クイズ大会など)を開催する。
環境	
環境保護・保全活動	各務野自然遺産の森にて主に親子向けの自然体験活動を運営しています。自然遺産の森には、立地的にさまざまな公園利用者がいますが、関市との市境にあり山間部にあることから、登山者が非常に多く見受けられます。自然遺産の森からさまざまなルートのトレッキングコースがあることから、ビジターセンター的な役割の施設があるとより安全安心な活動ができると考えます。 脱炭素への取組
その他	持続可能な社会づくり、SDGS の理念に沿った活動を推進する。
保健・医療	
健康づくり	食と健康の連携 健康づくりの連携 健康面で心配なことも多くなり、サークル内でも、病気などで辞めたり欠席したりする人が増えている。
保健・予防	ライフステージに応じた切れ目のない歯科検診の整備・拡充 オーラルフレイル対策の推進 予防推進のための給付の拡大
地域医療	在宅歯科医療の取り組みの促進 医科歯科連携を始めとする地域医療連携の強化・推進 訪問看護ステーションとの協働
福祉・社会保障	
地域共生社会	非自治会員への対応 近隣ケアグループとシニアクラブの活性化と協働事業推進 個人情報保護法がネックで近隣ケア活動が進まず(情報不足) 協力共助精神の醸成(支えあい活動の推進)
高齢者福祉	働き盛りの30代、40代の社員が、親や家族の介護を理由に、働く条件が合わず、辞めざるをえない状況が出てきている。今後も、同様の課題が出てくるため、介護問題は大きな課題と認識。 少子高齢化の中、高齢者の健康づくりを目指しています。 介護関連機関との連携強化
障がい児者福祉	障害福祉関連機関との連携強化
子ども福祉	この八木山・愛宕山を自然環境と地域の健康増進の場及び、小学校・特別支援学校の教育の場として利用できるように整備を進めて行きたいとの思いです。特に少子高齢化の中、自然の中で育む乳幼児の環境の場づくりを目指しています。7 年度開校する特別支援学校児童・生徒の自然を利用した教育に寄与したい思いです。そのために何が出来るかを模索しております。 子育て中のお母さんから、リフレッシュのために気軽に預けられる場が欲しいと言われる。市のファミサポ等紹介するが、折り合わないところがある様。要望に応じてあげたいが保険料が高く難しい。以前、県の保育マイスターの制度では年間二千元で加入できたが現在はなくなったよう。 歯から始める子供、子育て支援の充実 特別支援学校での医療的ケア児への支援、訪問看護ステーションとの協働

区分	回答内容
防災・防犯	
防災体制	労働組合は働く人の組織なので、貢献できる分野も多彩。企業の様に物資や資金面での援助は難しいが、人的フォローや技術支援などができる。組合単体での活動を市や市民と連携できる活動につなげられたら良い 令和3年度より自主防災組織の自律的稼働に取り組んできたところである。令和3年度には「ひやりMAP」作成事業を行い、住民に防災についての意識の付けを行い、令和4年度には自主防災組織を有効化するため各務原市の出前講座等を利用して風水害時の備えについて学習した。また令和5年度は「地震に備える」で地震時に火災が発生したという前提で自主防災組織員による消火活動を行い、自主防災組織を自律的に稼働させることに取り組んでいる。 →自治会役員や班長が隔年・年次で交代するため最終的に住民全員が自主防災についての役割を担当して訓練を受けることができ、自主防災組織のベースが出来上がるが、どのように継続していくかが課題である。 災害時の母子支援の体系化 市内の校下単位の自治会において、推進委員が中心になって自主防災会ができつつあるが、自治会の認識度において大きな温度差がある。 推進会員相互の防災知識の再教育及び自治会への（防災推進委員）講師派遣による、防災知識及び意識の平準化を企画すべき時期か。 災害時においてボランティアセンターと避難所の運営がある。特に防災推進 NW は避難所運営に携わる可能性大であることから、避難所の避難女性に対する女性推進員の育成・拡大を要する。 今年も災害があるかもしれない。災害活動に参加した現場の状況報告を兼ねて情報を共有化する。 災害対応力（自然災害、サイバー攻撃 等）強化
消防・救急	機能別消防団員の確立（災害時における外国人対応団員など） 消防団と常備消防連携はもとより、他の行政機関との連携強化 卒後に消防職に就くことを目標にしている学生が多く、消防署の活動に高い関心を持っています。学生消防団の救命講習や消防団活動への参加だけでなく多くの消防署の活動に参加させていただきたい。（例：救急車の同乗、集団救護訓練等）
防犯・交通安全	一人住まいの高齢者が狙われないようにする。 ニセ電話詐欺、侵入盗犯罪、街頭犯罪被害防止に向けた取組の方法 関係機関・団体等と連携した市民への啓発活動の推進 交通安全啓発活動を支える原資となる免許更新時の「交通安全協力金」の支援（協力）率が減少していることから、資金不足を招き、本来なら一般的な対策として実施されるはずの ・交通安全思想普及チラシの配布 ・交通安全グッズの配布 等の活動が存分にできていない。
基盤整備	
都市空間	緑に関する事すべて。都市空間、都市基盤を整備し、若い人たちが子育てして住みたくなる街づくりをどう市の全体計画の中に組み入れていくか日々成長する生き物を扱う仕事ですので、放置しておくと思わぬトラブル、災害に成ることが考えられる。住民さん、行政さんとの意識の共有が必要となります。 昭和40年代に築造された位置指定道路（個人名義）、二項道路など現に生活に不可欠な道路でありながら、当時の基準が甘く、非常に管理状況が悪いまま放置されている道路が見受けられる。所有者ないしは現に使用している共有者が市に移管を求めても、受け入れの基準が大変厳しく放置の原因となっており、中には建て替え・増改築もままならず、困っている方々は少なくないと思います。行政として見ないようにしてきた部分かもしれませんが、放置し続ければ、結果所有者不明土地、空き家問題に行きかねない問題であると思います。
上下水道・河川	上下水道における申請書の簡略化により飲料水供給と下水道普及が一段と推進し、地下水保全と生活雑排水の対策が進むのではないのでしょうか。
公共交通	人口減少、バス運転士不足
産業	
工業	半導体分野をはじめとする、航空機以外の先進産業とのマッチング 工場の DX 推進 今後の景気状況
商業	市内にある商店街の経営者の高齢化が進み、商店街が機能していない状況で空き店舗も多い。このままでは廃業が増加し、商業者が減っていくことを危惧している。
農業	地元森林保全活用の課題に関する動向の情報収集方法 地消地産の食生活（地域作物による学校給食） オーガニック有機農業（堆肥の安定供給、供給拡大）、有機 JAS 生産者の組織化 競争力の強化 温暖化対策 協力団体、生協等との連携

区分	回答内容
	ネット販売の取り組み強化など
	農地集積を見据えた農業経営者の育成、就農希望者に対する長期支援体制の構築
雇用	工業系学校移転誘致等含む産学官連携、つながりづくり、採用活性化の可能性
その他	農商工連携活動、効率化事業に関係する環境整備事業の情報収集周知方法
行財政	
行政運営	外国人の住みやすい街づくり
シティプロモーション・移住定住	人口減少や少子高齢化の中で地域活性化に取り組むためには、関係人口の創出・拡大が必要だと考えます。観光資源や地域イベントの磨き上げ、新たなコンテンツを活用した情報発信など市外に各務原市の魅力をPRし、一過性の観光客を地域行事の担い手に定着させるのが理想的です。または次世代産業を誘致することで、新たな雇用を創出することも定住人口の拡大に直結するものだと期待されます。
	市外からの移住を促すために、どのようなPRをおこなっていくか。

問3. 期待する各務原市の姿はどのようなものか

区分	回答内容
市民協働	
市民協働	市民と二人三脚で地域課題に取り組む姿を期待します。市民団体からのフィードバックに基づき様々な政策や条例に反映し、その代わりに市民活動を後押しできれば、より理想的な関係性や循環が生まれると考えます。 お互い様活動が実行されている町(市) 思いやりとふれあいのある協働のまち 市民団体が多く登録されているが、団体間の横断的交流や情報交換が乏しいように見受けられる。情報過多な時代に取捨選択するより、直に面談して雑音や無関係な情報を見聞するのも市民交流として大事である。例えば多くの公共施設には AED が設置されているが、そこで活躍する(体育系)クラブやサークル代表者たちは、その存在すら知らなかったり使えなかったりする。これらの市民交流や情報交換は正に自助および共助はないだろうか。
人権・平和	平和で安心安全 多文化が共生できる街。
教育・文化・スポーツ	
学校教育	知名度の高い総合大学誘致の足掛かりも上記同様に期待のところ。
学びの機会	これからの子ども達が、家と学校だけでなく、朗読(読み聞かせ)によって、地域の中にとけこんで、本を読むこと、聞くことの楽しさを、お年寄りも含めて、大人たちとの交流の一つとして「本の街かかみがはら」としての文化が大きく発展していけばうれしいです。
文化芸術・歴史	地元の文化や歴史に誇りを持ち、次の世代の子どもたちも住みたいと思えるまち
環境	
環境保護・保全活動	豊かな自然と調和する共生のまち 各務原市が保有する樹木管理への期待度 緑が多く子育てしやすい街 自然とふれあえる余暇施設等の充実
保健・医療	
健康づくり	活動時の駐車場の補助を期待します。 自然環境を利用した市民の健康づくりの町を目指していただきたい。木曽川右岸を鵜沼から川島までを自然を楽しみ、スポーツを楽しめる公園化を進めていただきたい。休日には市内各所からこの公園に向かっていける自転車専用道路の建設も併せて望むものです。また、普段は地域の小さな自然を利用した健康づくりの場を利用できるよう整備を進めていただきたい。 市民が健康、安全な暮らしができる各務原市 学校給食や家庭食卓において、オーガニックの利用促進
地域医療	笑顔が溢れ 将来に渡って住み続けたい市になるために 医療介護、社会保障の充実
福祉・社会保障	
地域共生社会	現在、他市町村と比較して福祉分野において充実されていると思っている。これからの市政を担う人材を育成するという点では、優秀な子どもへの支援も必要であるが、社会的弱者となる人を切り捨てないで、社会的に活躍貢献できる場があるといい。誰もがバリアフリーな立場で、暮らしやすい街であることを願っています。 お年寄りとお若者が集う町、福祉の町と言われる町(市) 子どもから高齢者、だれもが安全で安心して暮らせる住みよい地域社会 絆づくりに繋げる
高齢者福祉	高齢者が安心して生活できるまちづくり お年寄りが安心して暮らせるまち。
障がい児者福祉	私たちの住む市には、様々な障害や性別、年齢の方がいます。そのすべての障がい者にとっても幸福に暮らしていけることを大切に、共生社会を目指す。
子ども福祉	子どもの福祉が充実した街になることを期待する。 子育て中のお母さんが孤立しない子育てのサポート。地域の方が支える親子の居場所の存在。施設利用の規約の緩和。(縛りが多く利用できない) 若い子育て世代に対して手厚く優しい街。常設施設、サポート体制、イベントの充実。 子どもがのびのびと育つまち。
防災・防犯	
防災体制	安全安心に関心を持ち、日ごろから危険を避けるための知識技術を学び、いざという時にはお互いに助け合うことができる、アイテム(備蓄品)と勇気を持っている市民が多い各務原市。 災害時に母子が安心して過ごせる。 自衛隊基地の存在は市民の依存心を高めており、各地での自衛隊の活躍を見聞して、かえって防災意識を乏しくさせているかもしれない。従って自助・共助の意識を高める方策の検討が必要？

区分	回答内容
消防・救急	市制 60 年を迎え、結成当時のままの消防団編成を、令和の時代並びに今後の各務原市に沿った、消防団編成(学校区単位での分団制等)
防犯・交通安全	行政・自治体・消防団が常に連携が取れた、市民にとって安心で安全な街、そして防犯にも強い各務原市を目指す。 自分の地域の安全は自分たちで守るという自主防犯意識を形成し、犯罪を街全体で抑止し、『安心安全な街かかみがはら』となることを期待する。 当協会は、それ程独自性はなく、『春の全国交通安全運動』をはじめとした四季の運動等については、各務原市交通安全対策協議会、警察等の意向に従って、どちらかというと従属的な立場から活動し支援するものであり、ボランティア活動であるので、各務原市の姿についてどうこういう立場にはありません。ただ、直接各務原市に対してという訳ではありませんが、助成金を増やして欲しいと希望するものです。
基盤整備	
都市空間	公園が多く子育てしやすい街 少子化に伴い、子供の遊び場、砂場、遊具等の利用が少なくなってくる傾向がある為、山の中を利用した自然の中で遊べる場所(自然遺産の森)を接地してはどうか。健康器具等も。 概ね、満足しています。 人口の増加(移住者、出生率の上昇)により、建築の活性化
交通体系	交通網のインフラが整った安全安心な街づくり、歩車分離により人の賑わいの創出
産業	
工業	広く市内近隣市外から人材採用し、事業を継続してきたが、近年非常事態にあり、市内工業高校の市外流出を抑制する等の声の広がりがつつあるが採用は難航。期待として各務原市工業高校の存在、産学官連携が望まれる。 工業地の拡張も期待するところ。工業誘致事業。 成長が期待される産業が多く集積し、今後も県下 No1 の製造品出荷額を誇れる街。 少子高齢化は本市が抱える課題の真因である。そのため、既存中小企業の活力創造や各務原市がアドバンテージを持つ航空宇宙産業関連企業の支援によるまちの創生を推進していく「まち×人×仕事＝活力創生拠点」があるべき姿と考える。
商業	空き店舗を活用し、人を呼び込むイベントや仕組みづくり。創業したい人が空き店舗を活用し、スモールスタートできるような仕組みがあるとよい。 持続可能な自立した地域経営のまち
観光・交流	コンパクトな自治体であることから、航空産業から農業、山間部の豊かな自然環境に恵まれていることから、身近な場所で自然を体験できる場所として、既存の公園をさらに上記ビジターセンターのような役割を持たせることで市内および市外にもアピールできる潜在的な要素が多くあると感じています。 観光地としての機能を発揮できる街 とても良い街で満足してはおりますが、桜まつりに続くイベントを多くやりたいと思います。
農業	生産者と消費者が繋がる地域ネットワーク 地消地産(地域で消費する農産物を地域で生産)への PR 農業者への経営支援など 地域農業の発展と新規就農者の支援体制
雇用	働きやすい街であること。従業員が、住みやすく働きやすい環境であれば、仕事も定着できる。子育て支援も充実したものであれば、より定着率が上がると思われる。 若い人たちが働きたいと思える各務原市 大人が生き生きと働くまち。
その他	若者が住みやすいまち＝活力のあるまち 商業・工業・農業がバランスよく共存できる街。
行財政	
行政運営	休暇促進も必要だが、現実には平日の日中に行政手続きやサービスをうけるのは、労働者には難しいため、DX化などの幅広い運用が必要。
シティプロモーション・移住定住	空き家の無い、若者移住者が増える町(市) 各務原市で生まれ育った若者がずっと市内で働き住み続ける、また若い世代が移り住みたくなるような活気あふれる街づくり。
その他	
その他	市民にやさしい街づくり。 一人一人が主体者意識、当事者意識の高い各務原市民でありたいと願う。そうすることで、皆が生き生きと暮らせる街になっていくことを願う。 助け合って生活でき、安全で快適に過ごせる市であってほしい。 安心して暮らせる街 いつまで住み続けたい安全・安心のまち 明るく住みよい街 若い世代が住みやすい街づくり

問４．期待する姿の実現に向けて、主体的に取り組みたいこと

区分	回答内容
市民協働	
市民協働	地域との連携(市民活動) 各務原市の魅力向上として、地域貢献活動を行政と協力して取り組みたい。 イベントにて企画や参加の要請があれば喜んで参加させていただきます。 街のあり方を探るワークショップの開催を実施して、市への街づくり提言を行いたいと考えます。
人権・平和	気軽に相談に来てもらえるような場所を設けたい。
教育・文化・スポーツ	
学校教育	工業高校設置、総合大学誘致の実現に対する、学生、保護者、ご家庭、学校側へのヒアリング、期待度の調査。
青少年教育	他者との関わりの中で、子供たちの自己肯定感、自尊感情を一層育てること。
学びの機会	サークルとして活動を広げることは難しいが、サークル発表会や体験会を通して、サークルの楽しさや充実感を知らせて行きたい
文化芸術・歴史	現在、市のイベントとしての「クラブサークル発表会」を主に、出前講座や出張サークルでの地域からの要望に取り組んでいます。また小学校へ学童の子どもたちの夏休みに出向いたりさせていただいたりしていますが、これからもできるだけ要望に応えたいと思っています。 子どものころから地元の文化(お祭りなど)に親しみ、歴史を理解するため、小中学校の授業や校外学習への参加協力。
環境	
環境保護・保全活動	温暖化対策 環境問題
生活環境	各務原市全体(緑)に関する景観度のイメージアップ
保健・医療	
健康づくり	個人の健康づくりをサポートする
保健・予防	フレイルチェックの担い手 国民皆歯科検診に向けての健診体制の確保 個人の予防をサポートする
地域医療	地域連携、多職種連携の推進 地域を支える歯科医療を推進する 質が高く、効率的歯科医療体制を確保する 多様なニーズに応え、社会貢献を果たす
福祉・社会保障	
地域共生社会	社会的弱者の社会参加の場を作る。福祉制度の中で支援を受けるということでは、主体性は失われ、制度を享受するのみの存在となってしまうが、そのような人でも、社会参加への意欲が持てる活動に取り組みたい。現在は自分たちで月に一回マルシェを開催し、支援者どうしや、当事者どうしそこに地域がつながり、経済の循環の仕組みができないかと模索をしている。 多文化が共生できる街づくり
高齢者福祉	近隣ケアグループの役割の担い手 V/H参加者の送迎
障がい児者福祉	現状は様々なハードル(バリア)があり、みんなで社会にあるハードルから生じる困りごと等に気づき、どのようにすればなくなるか考え、配慮、工夫をして取り組みたい。 特別支援学校で医療的ケア児と保護者が安心して過ごせるシステム。
子ども福祉	企業と協働し、フードドライブポストを設置し、食糧支援を試みている。 子育て中の親子が気軽に集える場所作り。託児にも力を入れていきたい。 子ども支援、子どもの居場所づくり
防災・防犯	
防災体制	緊急時などの人的支援 災害時に安心して過ごせる母子支援システム。
消防・救急	消防本部だけでなく、関係行政機関と市議員を含む、有識者と共に未来永劫継続する消防団を目指す委員会を立上げ、目標を持って協議する。 各自治会長と各地区消防団との交流を行い、現況把握と継続に向けた取組。 救命の知識技術を学べる大学であるため、学生による市民への応急手当手技(心肺蘇生法・AEDの使用手法等)の普及(既に実施)の拡大。
防犯・交通安全	コロナで出前講座が少なくなり、電話を使った詐欺が多くあります。全地域で出前講座ができるようになればと思っています。 防犯ボランティア団体への支援を積極的に行うことにより、地域安全活動を活性化させていきたい。

区分	回答内容
	主体的に取り組みたいことについては、四季の運動等の際に思いついたことを各務原市交通対策協議会と警察に諮って実施していくつもりですが、取り組みたい活動の主たる事項は、子ども対策、高齢者対策、運転者対策です。
基盤整備	
都市空間	上記のように、各務野自然遺産の森にビジターセンターを設置することでより多くの来園者に市の自然情報を発信することができ、かつより安全で安心なトレッキング活動を行えることにつながると考えます。 八木山～愛宕山までの団地道路に並行した「すそ野道」を地域の住民が健康づくりに利用しやすいよう整備を進めます。八木山・双子山・愛宕山を健康と教育の場として地域の人々・学校関連及び登山愛好者が利用しやすいよう環境整備を進めます。 緑化事業への積極的参加 街路樹、公園の整備促進 樹林地、草地、水辺他、岩石地が自然の中に形成できる都市環境整備。 当協会の公益目的事業を肅々として行っており、ご活用頂ければと思います。
上下水道・河川	市民の皆様は上下水道を通して、市民の要望に応えられる、組合活動をして行きたい。
公共交通	高齢者は受診時の移動手段に困っている。助け合い活動で福祉有償運送を充実させたいが、担い手が不足している。
産業	
工業	航空宇宙産業のモノづくり団体として、航空宇宙産業の魅力や将来性、組合員企業の卓越した能力魅力等について産学官連携を通じ情報発信
商業	廃業を止めることができないので、創業者の支援に力を入れていく。また事業承継の相談にも積極的に乗り、マッチングなども行っていく。 創業支援、事業転換支援、事業承継支援 常にお客さまに喜んでいただく。
観光・交流	まちおこし映画祭では、まちづくりに関する交流会や参加者アンケートなどを実施します。そこで得られた情報やデータから地域活性化に対する意見をまとめ、行政や観光関係者に有効活用してもらいたいと考えています。 市民が思い出に残るような空間づくり、施設の開放、イベントの実施。
農業	地消地産への取り組み オーガニックの利用促進 生産農家の所得向上 農業 DX 有機農業の普及 農業後継者、担い手育成 新規就農者の育成、新規販売農家数の増加 地域の魅力発信(魅力ある食の提供) など 農業者の支援 農地集積に係る行政との連携 新規就農者の支援 地域野菜の販売販路拡大
雇用	各務原市と各務原市で働く人とのパイプ役として意思疎通をはかる。 市民への街頭宣伝や社会への発信 市内在住者や移住希望者の積極的な雇用、弊社で働きたいと思ってもらえるような PR。
その他	本団体では市民協業が主目的であるため、別の団体で企業誘致を含めた「まちづくり」に取り組んでいる。 若手の育成(剪定技術等の継承)
その他	
その他	政策提言や意見交換 地域に根差した新聞社として、困ったり苦しい思いをしつづけている名もなき市民の声を取り上げ、紙面で伝えることで、行政を動かす力になればと思います。各務原市が打ち出す画期的な行政サービスは、読者にとって必要な情報として、紙面で積極的に取り上げていきたいです。 一方で、政策や大型事業に対しては、外からの目線で厳しく調査報道を行い、課題や問題点などをしっかりと追及していくことも、地域の新聞社として重要な役割だと考えています。 当団体への未加入会社さんの加入活動等 今後の状況により考えていきます。

問 5. 自由意見

(今後のまちづくりについて、新たなアイデア等、の意見や要望)

区分	回答内容
市民協働	
市民協働	今後、各務原市と連携を密に、色々な課題解決を実施し、より良い各務原市へと協力していきたい。 各務原を盛り上げたい団体は沢山あります。これらの団体を一本化するような集まりや会合があればと考えます。 以前、各務原の NPO の協会に参加していましたが、市への不満を言う人が多く、あげくには事務局員が市会議員に出馬するので応援して欲しいと言われその場で退会しました。こんなチームにならない配慮がいるかもしれません。
自治会・広報活動	少子高齢化に歯止めをかけることができれば「負け組」となる。地方創生にしっかり取り組んで「勝ち組」になるために雇用促進・移住定住に取り組んでいただきたい。それは行政の問題だけではなく自治会などを含めた総合的な取り組みである。
人権・平和	窓口に気軽に来てもらえるような場所にして、相談に対応する。
教育・文化・スポーツ	
学校教育	現在 80 代、職業は教職です。26 年、各務原市の教育に携わってきました。教えた児童・生徒は何人になるでしょうか。おそらく、数千人になると思います。役所関係の方々の中に何人もいます。なぜ、あえて自己紹介をしたのかといいますと、市内の小・中の児童・生徒たちにことあるごとに、この今、いる場所は君達の学校であること。この学校は親が汗水流して建ててくれた学校であること。だから、きちんと学校をきれいにし、清掃活動を身をいれてすること等(勉強と部活動は両立できる。)それが、どこでどう間違ったのか学校が荒れたり、不登校、いじめ等、市内の学校が世間の荒波にほろろされています。私の時代にも学校内では前述のような事象は多々ありました。が、当時の生徒たちは自浄力がありました。自分たちの学校がこれでよいのか等、自己反省。生徒会を中心にして学校にして対して、教師にたいして、親に対して(地区懇談会を通して)。今や、だれもかも「塾通い」。教師から部活動の指導が離れ、地域(社会人指導)指導へ移行する時代です。そんな中で生徒間の友情とか親友づくりができるでしょうか。時代遅れの老年ものの、私の「今後のまちづくり」は児童、生徒たちがこの街をどう考えているのか一度、聞きたいものです。私の孫たちは勉強に部活動に取り組んでいます。私も両立は大賛成です。 各務原市に立地する大学として、大学の PR を全国に発信する際に、各務原市の魅力も伝えることより、他地域から各務原市への学生の移住者を増やすことで結果的に(就職等がこの地域で決まるなど)各務原市に定住する者を増やすことに繋がると考えます。 市内3ヶ所の高校のいずれかに工業部の新設(工業高校へ行きたい市内学生は市外まで通わないといけないので)
学びの機会	このアンケートの要請を受けて、正直どんな風に考え、書けばいいのかわかりませんでした。朗読を始めたのも、ただ「やってみたいな」、「楽しそうだな」と興味本位でした。でも、この機会を得て「こうなればいい」と思っていたことに自分自身で確認することができてうれしく思います。子どもたちはゲーム、大人はどこにいてもスマホを見ている。本離れはますます広がり、人と人との交流が少なく地域のコミュニケーションも難しくなってきました。コロナの影響はもちろんですが、みんなふれあいに飢えています！充実したコミュニティの場所で「学びの機会」を得た人たちによって、文化のまちとして各務原市が輝いてほしいと願います。ありがとうございました。
文化芸術・歴史	広い公民館(川崎町) 昨年、イオンシネマ各務原で市学芸員さんの承久の乱の講演を聞きました。映画館の巨大スクリーンを使って解説をするのはとても面白く、ナイスアイデアでした。各務原らしいイベントがもっと増えたらいいなと思います。
スポーツ	人口に対して、スポーツ施設が少ない。利用しようとしても、空きが無く、抽選になるので施設の増強。 アウトドアや新ジャンルのスポーツのシンボリックな拠点を設け、定住移住者がさらに増えるようなイメージアップを図る。
環境	
生活環境	当団体では、生活学校運動の紹介、啓発活動として、パネル展開催イベント等に参加しています。その時には、チラシ(食品ロス削減、食べきり運動、ぎふ清流調査隊等)など置いておくだけではなく、直接手渡しをして対面でお知らせするよう心掛けています。一言でも心に残ってくれればと地道な啓発活動をしています。そこで、要望ですが、活動を推進するに当たり、市内での参加できるイベント等お知らせ頂けないでしょうか。また、市が開催するイベントのお手伝いをさせて頂ければ幸いに思います。

区分	回答内容
保健・医療	
健康づくり	健康についての取り組みを健康管理課、高齢福祉課、食改でタッグを組み進めていきたい。 市民一人一人の幸せは、心と身体健康なくしては成り立ちません。歯科医療はその願いを叶える重要役割を担っております。生涯にわたる歯・口腔の健康づくりに関する市民の自主的な努力を促進するとともに、ひいては、全身の健康につながるよう、総合的な取り組みを推進して頂きたい。 高齢化社会の本格化に向かい、公共建物(学校施設を含む)の空きスペースなどを活用して、地域住民のための健康づくり設備(スポーツクラブ・ジム)を作れないでしょうか。高額な医療負担額(市負担分)の支払いに充てるのではなく、市民の健康維持に公費の一部を充てる事で医療負担額は減少し、市民は健康を維持し過ごせる。民間のスポーツクラブに任せるのではなく、官が公費を以て介入することで格安に健康維持サービスを提供できると思います。
地域医療	すべての市民が必要な口腔保健医療サービスを受けることができる環境を整備されるよう協力をお願いします。 産後うつをなくす取り組みをしています。特別支援学校における訪問看護ステーションのあり方を検討したい。
福祉・社会保障	
地域共生社会	近隣ケアグループ員に個人情報を開示し、制約の無い活動 支えあい活動の有料化
社会保障	NPO は地域課題のために活動をしているため、地域課題を行政と共有できる機会や、協働を協議できる場があるといいかと思っています。民間からの視点と行政からの視点は立場が異なるためなかなか対等に課題を見ることは困難と思われます。行政だからできること、民間だからできることがあり福祉の分野では、様々な法制度が出来上がってきてはいますがその制度が細かく細分化されればされるほど、そこに当てはまらず支援の手が届きにくくなってしまうということもあるため、連携した支援ができる関係性が必要。しかしながら、民間のボランティアでできる範囲や責任を考えると、そこには支援からこぼれていく人たちが起きる現実があります。何か、制度では難しい問題が起きたとき、どちらかが押し付けあっていくことではないかと思っています。そのような点から、縦割りの制度ありきではなく、各分野を超えた協働ができる方法を考えていく協議の場を設ける必要があるのではないかと思います。
高齢者福祉	市内での Wi-Fi 活用、独居老人宅へのタブレット配布
防災・防犯	
防犯・交通安全	助成金の増額は、これまで協会長等が各務原市交通安全対策協議会を訪問して要請してきましたが、叶いませんでした。その際に、交通安全啓発品等については、当協会に交付すると約束していただきましたが、これを、当協会が要望する物でなくとも、四季の運動等の前に各務原市交通安全対策協議会の方で自発的に提供していただきたいと思っています。
基盤整備	
都市空間	現在、自然遺産の森にて自然体験塾講座を運営していますが、講座の参加者には公園の自然情報や楽しみ方を専門家から直接教えてもらえますが、ビジターセンター的な施設を常設することで、講座参加者だけでなく広く来園者に市の豊かな自然情報を伝えることができるため、専門家が常駐する施設を希望します。 事業拡張に支障となる市街化調整区域、工業地域、準工業地域規制の改善 市内の空き家を市で借上げ、改修して借家とする。 私の住んでいる団地は高齢者が多く、若い人達が少なく、空家が多いです。子どもたちの声で賑わっていた公園もとても静かです。空家に若い人達が入ってはきていますがまだまだです。何とか空家対策をしていただき、公園に子ども達の声が戻ってほしいです。 八木山～芳宕山へのすそ野道上を健康と障がい者教査の場として利用できるよう道の整備と付帯設備の設置を要望します。現状の活動では利用できる状況づくりは不可能なため。 ①2メートル以上の道幅の整備を。車いすや補助者が並行して歩く道幅が求められるため。 ②3%以内の緩傾斜の整備を。障がい児(者)や高齢者が自力で利用できるゆるやかな道へ。 ③環境を配慮した簡易舗装を。自然の緑の下で乳児から高齢者までが育まれる環境づくりを。 ④10 台程度の駐車場の整備を。「各務原特別支援学校」児童・生徒が自然環境教育を利用する送迎車両及び健康づくり利用者の駐車場の設置を。 ⑤駐車場に付帯する公衆トイレの設置を。障がい者および高齢者にはトイレは必要です。 トイレが設置された広い公園(運動場) 各務原市に外部から(視察・相談・交渉等)来て頂いた人から見た場合に緑・街路・施設周辺が整備されていると思われるようにしたいです。(特に駅周辺・メイン道路・施設周辺)公園や施設が次々に建設されております。その施設を結ぶ道路や小道の整備、道路であればできる限り電線を地中化し樹木の生長を促進するとか小道の整備は途中に小川を整備するとか、景観ポイントを線の場合にも建造する。お隣の犬山市のように若い人たちが集うエリアの構築をする。空き家の活用、飲食、雑貨等山間部を利用してアスレチック施設や釣り堀等の設置。
交通体系	関江南線の慢性的な渋滞緩和策(例;21号線交差点の立体交差、バイパス機能、愛岐大橋-ライン大橋間の新橋早期開通 等)

区分	回答内容
	街づくり提言書にて今後のあり方を考えるにあたり、交通網整備を含めた都市計画を取り組みたいと思っています。
産業	
工業	現存の工業団地の飽和状況によっては、隣接する市街化調整区域を優先的に事業拡張・斡旋できるしくみづくり 航空機産業は、新型コロナウイルスによる影響を最も受けている産業の一つで、運転資金調達、雇用調整金、出向支援など行政の支援を受けてきた。回復傾向があるといえども、諸物価高騰が経営を圧迫するも価格転換が難しい業界ゆえに厳しい状況の真ただ中にある。今後とも経営支援策のほか、競争力の強化・維持支援策や新ビジネス展開支援を充実してほしい。今後の民間航空機市場は、需要が回復し再び成長することが予測されている。また、他産業への技術波及効果が高く、国としても成長産業と位置付けられており、魅力ある産業の 1 つである。しかしながら、世の中の航空宇宙産業へのイメージは、新型コロナウイルスによるマイナスイメージが残ったままであるため、組合員企業は人材確保に苦慮している。このマイナスイメージを払拭させるための、業界の現状や今後の成長について若者達へ情報発信するなどして、まずはマイナスイメージを払拭する働きかけをお願いしたい。
商業	市内のスーパー等に、移動販売車への助成を行い、独居老人への対策 補助金申請に対する支援体制
観光・交流	高速やJRに名鉄など、利便性が良い街各務原を活かして、デイキャンプなどアウトドア施設の充実（関係企業と連携） 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館とアクアトを無料バスで繋ぎ、共通チケットを販売（市内の小中学生以下無料）
農業	鵜沼地域の人参ブランドをいかにメジャーなものにするか。人参生産者の増加につなげるため、メディアをどのように活用すべきか。人参料理が有名な都市（沖縄とか）と連携して、人が集まる施設を設立、または誘致して地域の発展に繋げていくなど。
雇用	市内企業の労働者確保の為、工業系の大学の誘致 学生に向けた持出し労働講座の開設 働く先輩とこれから社会に出る若者との意見交換
その他	航空産業のまちに特化した、ドローン活用試験空間、輸送・環境整備
行財政	
行政運営	法務情報取得に距離、時間がかかるため、その改善 「今後の各務原市のまちづくり」については世間一般に見られる「上」からの目線ではなく、市民サイドの目線で「まち」全体を網羅する必要があると思う。
シティプロモーション・移住定住	各務原市のアイデンティティはどこにあるのか各務原市の強み・弱みを分析して、目指すべきゴールを新総合計画に反映いただけることを期待する。 人口減少が進む中で、これからはそれぞれの自治体が個性を打ち出して人を呼び込む時代になるでしょう。各務原市の個性とは何か、今一度掘り下げてみる必要があると思います。 安心で安全な住みやすい街のアピールを、行政機関だけの行事より、SNS 等発信力のある企業との連携を持った行事を行う。 大河など映画等の撮影に協力出来る街をアピールし、いろいろな作品の聖地的な街を目指す。（撮影スタジオの誘致） 岐阜市＝鵜飼、関市＝刃物など各務原市のメインイメージを定着させたい。そのイメージに基づきまちづくりを実施し、地域ブランドを確立するのにも地域活性化の一つだと考える。その地域ブランドに併せてメインターゲットを決め、訴求効果のあるコンテンツを作り出すという逆算式の発想があっても面白い。
その他	
その他	ネット社会の発展、様々な分野でのテクノロジーの発展など、社会の急速な変化とともに、社会全体から「寛容さ、寛容な心」が薄くなりつつあるような感じを受けている。まちづくりの要素の一つに「寛容さ」を取り入れることはどうでしょうか。